

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛知県日進市米野木町三ヶ峯4-4
管理機関名 学校法人 栗本学園
代表者名 栗本 博行

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、
下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 名古屋国際中学校・高等学校
学校長名 小林 格
類型 グローカル型

3 研究開発名

持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～

4 研究開発概要

持続可能なグローバル社会の実現のために、外部組織と連携したコンソーシアムを構築し、地域と国際社会が抱える諸問題を解決できる人材の育成を目的とした教育カリキュラム開発を実施する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用している

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
北村友人 氏	東京大学大学院教育学研究科 /未来ビジョン研究センター 教授	

伊藤 博 氏	名古屋商科大学大学院マネジ メント研究科 教授	
--------	----------------------------	--

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
[管理機関] 学校法人 栗本学園	栗本博行 (理事長)
名古屋国際中学校・高等学校	小林 格 (校長)
海外交流アドバイザー	中野 憲 (JTB 教育事業ソリューションセンター長)
地域協働学習実施指導員	岡田 あつみ (天白川で楽しみ隊 代表)
名古屋商科大学	亀倉正彦 (名古屋商科大学商学部 教授) 伊藤 博 (名古屋商科大学大学院マネジ メント研究科 教授)
東京大学	秋田 喜代美 (東京大学大学院教育学研究科 研究科 長)
名古屋市立大学	曾我幸代 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科 准教 授)
Lycée Georges-Clemenceau (ジョルジ ユクレマンソー高等学校)	Christian BERREHOUC (校長)
Immaculate Conception School of Baliuag (イマキュレイトコンセプシ ョン学校バリワグ校)	Alexander O CRUZ (上席副校長)
日進市市民生活部環境課	近藤伸治 (日進市市民生活部環境課 課長)
国際連合地域開発センター (UNCRD)	浦上奈々 (研究員)
独立行政法人国際協力機構中部 (JICA) 国際センター	八重樫 成寛 (JICA 中部 市民参加協力課専任参事)
公益財団法人ユネスコ・アジア文化セ ンター (ACCU)	田村哲夫 (理事長)
公益財団法人名古屋国際センター	勝 千恵子 (国際協力課 広報情報課主査)
公益社団法人名古屋青年会議所 (JCI)	神谷勇輝 (SDGs 実践委員会)
認定 NPO 法人アイキャン	筋 健太郎 (事務局長)
株式会社グリーンフロント研究所	小串重治 (代表)
株式会社ウェイストボックス	鈴木 修一郎 (代表取締役)

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	中野 憲 氏	JTB 国際交流センター	非常勤職員・雇用
地域協働学習支援員	岡田 あつみ 氏	天白川で楽しみ隊・代表	

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会の開催		1回										1回
国際教育推進委員会の開催	隔週2回実施：研究開発実践の確認と各種取組の運営管理											
未来共生ウォーターコンソーシアムの開催	持続可能な未来への対話セッション2022の運営及び開催 (2022年2月12日)											
外部啓発活動	外部学校説明会にてグローバル型実践の紹介等 私学合同説明会にて取組紹介及びワークショップ										Facebook・Instagram を開設し、活動内容を随時更新	

(2) 実績の説明

2020年から続く COVID-19 感染拡大によって、管理機関は事業運営方法などの修正・改善、ICT 機器を活用した新しい学びの提案や助言、運営指導委員会の実施及び国際教育推進委員会への助言、未来共生ウォーターコンソーシアム主催による「持続可能な未来への対話セッション2022」の実施などを行なった。特に、本年度におけるオンラインによる実践活動は、昨年度に行った ICT 機器の活用方法やオンラインシステムのノウハウを活かし、安定した運用ができた。また、「持続可能な未来への対話セッション2022」においては、対面での開催とオンラインでの配信を行う運営を補助した。

2021年度の本校の実践活動は、3つの点が成功したポイントだと考えた。

- ① オンライン国際理解研修のコースの増設
- ② 名古屋商科大学と連携による協働活動の実施
- ③ 産学官民によるネットワークの構築

上記のポイントも含め、地域協働・グローバルな交流という点で必要な要素を明確にできたの

が2021年度の成果と言える。

(a) 運営指導委員会の実施

5月の運営指導委員会は、オンライン形式による実施となった。オンラインでのミーティングに対する違和感はなく、カリキュラムに関する内容やコンソーシアム運営についての議事進行がスムーズに進行した。オンラインでの開催となったため開催にかかる費用が軽減された結果となった。

3月の運営指導委員会は、オンライン(2名)と対面での開催となった。この様式での運用方法も違和感がなく実施でき、新しい形のミーティングとして今後も運用可能である。議事の内容は、2021年度の国際教育推進委員から実践報告、運営指導委員と管理機関から3年間の生徒の変容について議論した。

(b) 国際教育推進委員会の開催

本委員会は、学内での開催であったが社会状況に合わせて会議のやり方もオンラインや対面を駆使して実施することになった。

(c) 未来共生ウォーターコンソーシアムの開催

2022年2月12日に未来共生ウォーターコンソーシアム主催による「持続可能な未来への対話セッション2022」を実施した。対話セッションは、対面・オンラインで実施され、教育関係者、民間企業の方々、地方自治体・国際関係機関の方々86名が参加し、本校の活動報告等を元に議論を深めた。参加者に関して、前年度より企業・教育関係者・NPOの方々の参加数が大幅に伸びた。これは、本校が構築したネットワークの広がりによるものと言える。また、「連携する方法」に関する興味・関心が高く、社会全体として学校と学校外の組織との連携に関するニーズが高まっていることが明確になった。その点も踏まえて、3年間の本事業における外部連携に関する実践結果は、十分な成果となった。

(d) 外部啓発活動

COVID-19感染防止の観点から非接触及びペーパーレスを意識し、ペーパーベースの広報紙からインターネット上のSNSでの発信に切り替えた。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アカデミックスキル獲得プログラム・コース/教科横断型指導法												
学校設定教科サステイナビリティ	SIA Skills(高校1年・1単位)・SIA 特論 I (高校2年・2単位) ・SIA 特論 II (高校3年・単位2単位) ・SIA 特論高大連携/演習(高校3年・1単位) ※高大連携=名古屋商科大学教授による講座 ※ プレゼンテーション、グループワーク、ポスターセッションなどによる授業の実施。学習テーマは社会科・理科的な要素を含む SIA Skills は、普通科グローバル探究コース生のみ受講 ※ 外部コンテストへの応募において「第9回ナレッジイノベーション」											

アワード 高校生アイデア部門」に参加									
ICT 機器の活用	オンライン国際理解研修								
	サステナビリティにおける調査・発表 Google を使用した課題提示及び課題提出、アンケート調査								
	オンライン授業								
	校内・校外における実践報告・活動発表等における活用								
コンソーシアムゼミ活動	天白川水系における持続可能な環境に関する白書の作成(天白川フィールドワーク・オンライン国際理解研修・サステナビリティを含めた3年間の活動を総括レポート)								
グローバルキャリア教育									
総合的な探究の時間	[地域キャリア] ・普通科グローバル探究コース：独自テキストによる探究学習の実施 →地域キャリアをテーマにした企業訪問・フィールドワークを実施 ・中高一貫コース：地域企業調査「CMを作ろう」を実施								
海外研修の実施									
オンライン国際理解研修	カンボジアコース	事前学習	研修 ➢ プランニング作成及び改善					外部発表及びレポート作成	
	オーストラリアコース		研修						

(2) 実績の説明

2020年度同様に、COVID-19感染拡大による社会の状況及び学習環境の変化により、計画の変更や実施の見直しが図られた一年であった。しかし、2020年度で ICT 機器を活用したオンライン学習の手法が、ある程度確立されていたことや生徒・教員がこうした状況における実践に対応できるスキルが獲得されていたこともあり、2021年度は2020年度の改善点の実施、オンラインと対面の同時運用であるハイブリッド型の実践、そして、ニューノーマル時代の新しい学びの構築を目指した。

2021年度の主な具体的な実績に関しては、以下の3つと考えた。

- ① ICT 活用による実践活動から次年度以降の新しい学びのプラットフォームへの目標設定。
- ② 地域との協働活動の幅が広がり、「水」という視点から「まちづくり」や「森と水の関係性」について新しい学びの場の形成
- ③ 愛知環境賞優秀賞などの受賞歴やマスメディアでの実践活動報道など外部組織からの評価の増加

上記のポイントも含め、グローバルな協働や交流が推進され、次年度以降の新しい目標設定が確立できた点が2021年度の成果と言える。その3つの実績を生み出したものが以下の活動である。

(a) 学校設定教科サステナビリティ

[高校1年] SIA Skills

- ・プレゼンテーションや発表、アイデアの創出のスキルを学ぶ。
- ・水をテーマとした調べ学習→ポスターセッション

[高校2年] SIA 特論 I

- ・アイデア創出の具体的な実践活動：フィリピン貧困地区への開発教材による交流

[高校3年] SIA 特論 II・SIA 特論（演習・高大連携）

- ・アイデアコンテスト等に挑戦する。
- ・自らが主体となり、未来を作るスキルを学ぶ：「授業をやろう」「他人を知ろう」「未来を創造しよう」などを通じて、持続可能な社会に生きる自らの歩みに目を向ける。

(b) ICT 機器の活用

本事業開始時より活用しているタブレット型コンピュータ (iPad) を以下のように活用した。

(i) オンライン国際理解研修：カンボジアコース及びオーストラリアコースにおいて、生徒及び引率教員は iPad 各 1 台を使用し、現地と接続。オンラインアプリケーション「Zoom」を使用。

(ii) 通常授業(特に学校設定科目サステナビリティで多用：調査、発表、動画や静止画等の作成で使用。

(iii) COVID-19 感染拡大によるオンライン授業：Zoom を使用し、状況に応じたオンライン授業を実施し、授業を継続した。

(iv) 校内・校外における実践報告・活動発表等における活用：調査、発表、動画や静止画等の作成で使用。フィールドワークにおける記録。

○本事業における ICT 機器の有効性を鑑み、学校用 iPad を購入。また、WiFi 環境の安定的な供給をするためのモバイルルーターや有線接続も可能にするためのケーブル等の備品も整備し、事業終了後も上記の活動を継続できる体制を整えた。

(c) コンソーシアムゼミ活動

指定3年目では、天白川水系に関するまちづくりを学校教育活動のすべての実践を踏まえ、総括するレポート「天白川白書」の作成をした。

ローカルな視点で天白川水系のフィールドワークを実施し、グローバルな視点でオンライン国際理解研修(カンボジアコース)にて Project Based Learning を実施した。そして、学校設定科目サステナビリティにおいては、SDGs を踏まえた社会課題のアイデアの創出を学び、SDGs 未来倶楽部 Sus-Teen! に所属した生徒は企業や自治体等の協働プロジェクトにも参加している。ゼミ生は、多様な場所、多様な人、多様な体験を通じて得られた視点により、天白川水系のまちづくりに関する考察や未来思考を一つのレポートにまとめた。また、ゼミ生の進路実績から「SDGs」、「まちづくり」、「都市開発」、「国際交流」に関係する大学・学部への進学が目立つことから本事業に関わることが生徒の変容に繋がっていることが明らかである。

(d) 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間は、「グローバルキャリアの構築」をテーマに実践をした。

○国際理解講演会：グローバルに活躍する方を招聘し、講演会を実施

2021年度「素顔と笑顔でグローバルに行動(考動)しよう～窓をあけてみよ、外は広いぞ～」豊田通商株式会社 取締役会長 加留部 淳 氏

2020年度「日本の金融機関の国際業務に携わって」

三菱UFJ銀行 顧問 小笠原 剛 氏

2019年度「一衣帯水の中国とどう向き合うか～中国・日本・アメリカの支流を地球規模で考えよう～」

日中友好協会会長 元中華人民共和国駐劔特命全権大使 丹羽 宇一郎 氏

○総合的な探究の時間：普通科グローバル探究コース：独自テキストによる探究学習の実施→地域キャリアをテーマにした企業訪問・フィールドワークを実施。（名古屋城、自衛隊、ゴルフ場など）、中高一貫コース：地域企業調査「CMを作ろう」を実施。愛知県内の地元企業を調査、分析し、その企業をアピールするCMを動画作成

(e) オンライン国際理解研修(カンボジアコース/オーストラリアコース)

[カンボジアコース]参加者：23名、期間：7月～12月(オンライン6日間)

事前研修(現地ガイドによるカンボジアについて)、Project Based Learning(PBL 学習)の手法を用いたフィールドワークの実践。グループごとにトンレサップ湖畔における水・まちづくり・SDGsをテーマにプロジェクトを計画し、実践する。カンボジアでは、COVID-19感染拡大に伴うロックダウンがあり、オンライン実施日は変更が多くあったが、オンラインという点から計画変更を柔軟に対応することができ、以後特に問題なくプロジェクトは実施できた。この点はオンラインの大きなメリットである。

[オーストラリアコース]参加者：10名、期間：7月～8月(オンライン5日間)

英語セッション(オーストラリアの環境や文化、日本との違いなどオーストラリアについて学ぶ)、留学擬似体験としてイマージョンレッスンや現地校高交流、現地人との交流としてバーチャル観光体験、バーチャルホームステイ体験をし、最後にスピーチを行う。

【オンラインの良さ】

2020年度に明確となったオンライン海外研修のメリットに加え、2021年度における新たなメリットや発見した内容は以下である。

- 現地の社会状況の変化に対する計画変更が比較的容易にできる。
- コミュニケーションが苦手な生徒に関しても、「対話による現地調査員への指示が活動の主であるため、コミュニケーション量が増える。
- カンボジアコースに加え、ホームステイやレッスンなどの一般的なオンライン研修も実施することでオンラインによる活動のバリエーションが増え、それぞれのメリットとデメリットを検証することができた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

○ 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又は社会課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数：8名参加

愛知環境賞優秀賞受賞、SDGs アイデアコンテスト優秀賞受賞、名古屋市からの感謝状授与等は、当日授賞式に参加した生徒数で計上

○ 教科教育研究授業及び検討会(学期1回)の実施回数：39回

学校評価アンケート・教科書選定のための教科部会、名古屋商科大学の教育内容に関する研修、国際バカロレア(MYP)のカリキュラム開発等も含む

○ 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又は社会課題に関する公益性の高い国内外大会における入賞者数：4名(愛知環境賞優秀賞：3名、第9回ナレッジイノベーションアワード 高校生アイデア部門優秀賞(準グランプリ)：1名、SDGs アイデア

アコンテスト(愛知県刈谷市)：優秀賞2名、名古屋市及びびなごや環境大学から感謝状を授与：2名)

※愛知環境賞は、学校全体の環境に関する実践活動が総合的に評価された賞である。人数は、ヒヤリング及び表彰式に参加した人数で計上。

※感謝状は、SDGs 未来倶楽部 Sus-Teen!と企業と協働開発した商品の売上を寄付したことによる表彰である。人数は、授与された時の参加人数で計上

○ 地域課題研究の発展学習として実施する国際理解研修(オンライン)に参加する生徒数：33名

※COVID-19感染拡大による社会状況を鑑み、オンラインによる海外研修を2020年度同様に実施。本年度は、カンボジアコース及びオーストラリアコースに参加した生徒数で計上。

○先進校としての研究発表生徒数：23名。

(オンライン参加) 全国高校生フォーラム、2022年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会、Learning for Empathy 国内ミーティング、Virtual Student Forum on Global Citizenship Education for Sustainable Development

(対面参加) 愛知県ユネスコスクール報告会、サステイナブルブランド国際会議 SDGs AICHI EXPO2021

(その他)学校間交流において両校の実践活動に関する発表をする機会の増加

○ タブロイド判広報紙の発行：0回→2020年度よりCOVID-19感染対策として非接触/郵送しない、環境保全を考え、ペーパーレスの方針へ転換。Facebook・Instagramでの情報発信に切り替え、2021年度も同様の体制で本校活動を外部に発信した。

○日進市の小学校および中学校のユネスコスクール指定は0校であるため、本校との連携に伴いユネスコスクールの指定を促進することを目標としてが、積極的な繋がりを持つことができなかった。ただし、ユネスコスクールへの加盟を目指す宮城県仙台第三高等学校との交流や名古屋市内の公立高校や他県の学校と事業連携協定を結ぶことで、ユネスコスクールとしての活動の啓発や交流を増進させることができたと考える。

<添付資料>目標設定シート

1.2 次年度以降の課題及び改善点

本年度は、前年度と同様にCOVID-19感染拡大による年度内での計画見直しと新しい学びの形への挑戦の一年であったが、前年度に実施したオンラインの活用による実践及び改善を行なったことにより挑戦的な実践をすることができた。その結果、地域でのネットワークの広がりや学校間連携の推進、オンラインに新たな可能性を見出すことができた。

本年度で事業最終年となったが、次年度以降も実践活動を継続していくとともに、ICT機器の先進的な活用と事業連携・地域のネットワークの実績をもとに、新しい学び場を形成していく計画である。そのために本事業で獲得した事業連携校や新たに連携校を増やし、国内外で生徒が一同に参加できるプラットフォームづくりをしていく。

《管理機関》

- 事業3年間で確立したカリキュラムの継続実施と高大連携の強化
- オンライン・対面によるコンソーシアムと生徒/教員との迅速な意見交流の機会を増やすことを目的にコンソーシアムが主催する対話セッションを継続実施するとともに ICT 機器を活用しコンソーシアムメンバーの授業への参画を促す。また、新たにデジタル担当を主とした新しい学びの計画を企業とともに推進していく。

《名古屋国際中学校・高等学校》

○研究開発別実践

(a) アカデミック・スキル獲得プログラムの構築

・ Society 5. 0 に向けた IT 機器・設備の活用による強化の ICT 化(全教室インターネット環境の整備、iPad/Mac PC の活用、World Online Class Room/ALL 教室の活用)による先進な学習空間の構築ができた。

▶[次年度]本校のみならず、国内外の事業連携校との交流の場を構築していく。

・総合的な探究の時間や学校設定科目、国際理解研修、ゼミ活動などを通じて、ディスカッションやプレゼンテーション、スピーチなどのコミュニケーション力の獲得ができた。

▶[次年度]全教科において、国際バカロレアの手法を参考にアクティブラーニングや高大連携によるケーススタディをより浸透することができるカリキュラム開発をする。

(b) コース・教科横断型指導法による先進的な学習スタイルの構築

・ COVID-19 感染拡大によるカリキュラムや授業計画の変更、オンライン授業への変更が最優先となり、教科連携や教科横断に関する実践が明確にできなかった反省点がある。また、この分野に教員への研修も今後は強化する必要が明確になった。

▶[次年度]中学校課程におけるアクティブラーニングの実施によるベースアップを図る。

理系・文系の枠を超えたカリキュラムの再構築

(c) グローカルキャリア教育の構築

地域の企業等の調査やフィールドワーク、国際理解講演会などを通じて、生徒自らの生き方(キャリア)についての学習を進めた。社会と自分の学びをいかに結びつけるかに重点をおいた学習である。高校2年生では、企業訪問後にその調査内容をまとめ、Google を使用したホームページを作成した。

(d) 地域課題研究

【普通科グローバル探究コース】

・ SIA Skills ・総合的な探究の時間で横断的に探究活動を行う。

【選択希望生徒】

・ 学校設定科目 SIA 特論 I の「水と SDGs、まちづくり」に関するカリキュラム

・ 地域協働コンソーシアムゼミ：課題課題に関する調査と考察、国際理解研修フィールドワークの実施。ゼミを8限(週1回)に実施。

○ 国際理解研修

・ 現行の国際理解研修に加え、普通科グローバル探究コースを新設：高校2年次実施。普通科中高一貫コース・国際教養科・普通科(令和2年度生徒は、普通科グローバル探究コース)の生徒全員が選択可能。

・ 前年度同様にオンライン形式による国際理解研修を実施。「水・まちづくり」をテーマとしたカンボジアコースに加え、英語に特化したオーストラリアコースも新設した。

・ 研修後は、活動報告書の製作及び高校1年生に対して活動報告を実施し、学校全体へ啓発した。また、代表者は、2月の外部報告会にて発表。

※本年度は、COVID-19感染拡大がおさまらない社会状況を鑑み、計画の段階からオンラインでの国際理解研修の計画をした。

○ アンケートの実施

高校3年生に対してアンケートを実施。アンケート結果の分析に関しては、本校発行の活動報告書に記載。

○ 研究成果報告会の実施（2月）やウェブサイト公開（24回以上）及びFacebook・Instagram（20回以上）での発信による成果普及活動

○ 「天白川白書」の作成及び研究テーマの引き継ぎを行い、事業終了後も同一テーマによる探究活動を継続する体制を整備する。

【担当者】

担当課		TEL	052-853-5151
氏名	鈴木 悟	FAX	052-853-5155
職名	教頭	e-mail	suzukis@nihs.ed.jp